



局外中立布告規則及七布達ノ註解



114  
A713  
4

大正十一年  
大隈侯爵邸

局外中立ノ布告規則并ニ布達ノ註解

第一 一般ノ敕詔 布告ノ別紙

此敕詔ハ局外中立ヲ宣告シ日本人民及  
ト日本国内ニ在ル諸人ヲシテ右ノ局外  
中立ヲ守ラシム可キ一般ノ號令ヲ下シ  
且右等ノ人々ニ違令ノ結果ヲ警告スル  
モノナリ違令ノ結果トハ即チ内国ノ條  
例規則ニ背ク所為アルモノハ内国ノ裁  
判所ニ於テ処罰ヲ受ケ又洋中ニ於テ萬  
国公法ニ及リ所為アラハ交戦国ノ為メ  
ニ捕獲及ヒ其他ノ責罰ヲ蒙ル可キ事ヲ  
謂フナリ

第二 局外中立規則 布告ノ体裁ニテ達ス

此規則ヲ以テ日本人民又ハ日本国内ニ  
在ル爾余ノ人々ニ其ノ所為ヲ禁シ兼ニ  
其禁令違反ノ処罰ヲ定ムル等ノ事ヲ為  
ス○自國ノ人民カ右等ノ所為アルヲ防  
遏スルハ局外國ノ義務トスル所ナリ是  
即チ此等ノ所為ヲ禁セサル可ラサル所  
以ナリ又其外局外國ノ人民ノ行フ所ノ  
所為ノ中ニ就テ交戰國ニ自ラ之ヲ責罰  
スルヲ得而シテ其局外國ノ人民ニシテ  
是等ノ所為アルモ其國ノ局外中立ヲ傷  
ルモノト為ス可ラサルモノアリ固テ是  
等ノ所為ハ自國ノ法律ヲ以テ禁遏スル  
ヲナリ唯交戰國カ自ラ之ヲ責罰スルヲ

アル可キ昔テ自國人民ニ一般ノ布告ヲ  
以テ警告スルノミ○局外國カ其人民ニ  
禁セサル可ラサル所ノ所為ハ即チ交戰  
國ノ軍役ニ加ハル事(尤路途ノ遠キカ為  
メ或ハ他ノ事由ノ為メニ斯ク軍役ニ加  
ハル人負極メテ僅少ナル可キハ局外  
國ニ於テ之ヲ禁スルヲ要セサルアリ  
ト雖モ)直チニ一方ノ交戰國ニ敵對スル  
ノ用ヲ為ス可キ為メ軍艦ヲ機裝スル事  
交戰國所屬ノ船舶ニ砲礮ヲ新載スル等  
ニ由テ其戦力ヲ添加スル事交戰國ニ敵  
對スル行伍隊ヲ整備スル事ノ如キ是ナ  
リ故ニ是等ノ所為ハ第二丹ノ内國規則

ヲ以テ之ヲ禁遏スルナリ但彼此ノ交戦  
目ニ於テ用フ可キ軍器或ハ其他ノ戰時  
禁制品ヲ賣與シ或ハ賣與セシカ爲メ船  
積スル等ノ如キ所爲アルモ局外國ニ於  
テ其中立ヲ破リタルニ非ラス唯局外國  
ノ人民ニ於テ之ヲ破リタルモノトス可  
シ故ニ是等ノ所爲ハ自國ノ法律ヲ以テ  
之ヲ禁スルナリ唯第一冊ノ布告ニ由  
テ若シ一方ノ交戦國ハ右等ノ物ヲ送ル  
ルハ洋中ニテ他ノ交戦國ノ爲メニ捕奪  
セラル可キ事及ヒ局外國ノ政府ハ右等  
ノ事ヲ行フ所ノ自國人民ヲ保護シテ其  
捕獲ヲ防ク等ノ事ヲ爲サ、ル旨ヲ其人

民ニ忠告スルノミ  
第三 諭達 行政官等へ宛テタル布達ナリ

此諭達ハ海軍陸軍及ヒ其他ノ官衙へ達  
スルモノニシテ交戦國ノ船舶ノ局外國  
港内ニ在ルモノニ對スル取扱ヲ定メ  
心得ノ爲メニ諭告スル所ナリ○此諭達  
ハ交戦國ノ船舶ノ取扱ニ就テ守ル可キ  
局外中立ノ程限(詔書中ニハ唯汎然其程  
限ヲ告示スルニシテ定解シ且交戦國ノ  
船舶ノ局外ノ諸港ヲ用フルヲ許ス可キ  
程度ヲ定解スルモノナリ)借外交上ノ手  
續ヲ以テ此諭達並ニ局外中立ノ布告及  
ニ規則ヲ交戦國ノ政府ニ通示スル所ハ

彼等ヲシテ其如何様ノ取扱ヲ受ク可キ  
事ヲ精密ニ知ル丁テ得セシムルナリ  
更ニ其順序ヲ轉シテ及復説明スル左ノ  
如シ

第三冊(即チ布達)ハ局外國ノ官莫ニ宛テ  
造スルモノナレバ專ラ局外國ト交戦國  
トノ間ノ諸事ニ關係スルナリ

第二冊(局外中立規則)局外國ノ人民中ニ  
某ノ所業アレハ即チ其國ニシテ局外中  
立ヲ破ルノ理ニ當ルモノアリ故ニ局外  
國ニ於テハ其人民カ斯ル所業ヲ為スラ  
防禁セサル可ラサレニ因リ其為ノ切要  
トスル処ノ禁令ヲ此規則ニ載スルナリ

第一冊(詔書ノ布告)ハ局外國ト交戦國ト  
ノ間ニ交戦國ト局外人民ノ間ニ守ル  
可キ局外中立ノ全体ヲ汎然ト指示スル  
モノナリ又交戦國ト局外人民ノ間ノ局  
外中立ニ就テハ日本國內ノ諸人ニ局外  
中立ヲ守ル可キ一般ノ命令ヲ下シ兼ニ  
内國規則及ヒ其規則ノ違反ニ對スル処  
罰ヲ普示スルノ外尚又其他内國規則ニ  
由テ禁セサル所ノ某所業ニ付其結果如  
何ヲ汎然警告スルモノナリ

千八百八十年十二月九日

ロバルト・ヒードン

外務卿閣下

